

世界遺産登録への道

Vol.23

「長者ヶ原廃寺跡整備基本計画」の策定について

●整備基本計画とは

市は現在、衣川区の「国史跡・長者ヶ原廃寺跡」を整備するに当たり、今後の基本指針となる整備基本計画を策定中です。この計画は、遺跡の持つ価値

を広く国民に共有してもらうと同時に、永くわたしたちの子孫に伝えることができるよう、同遺跡を歴史公園として整備するために必要なものです。

●基本計画の概要



この基本計画では、建物の礎石や基壇、土でできた築地塀など遺跡に残された当時の痕跡を確実に保存することと、遺跡を訪れた人々が簡単にその価値を理解できるように復元や表示を行うことを中心に据えています。また、遺跡整備の目標は「長者ヶ原廃寺跡の往時の姿に心をはせながら、周辺に今なお生きている伝承に耳を傾けること」によって、衣川で起きた歴史を追体験できるようにすることです。同遺跡は、奥州藤原



衣川区にある磐神社など安倍氏に関する文化財との一体的な整備も目指す

■問い合わせ 世界遺産登録推進室（前沢総合支所内線312、313）

地域安全情報



平成20年の犯罪発生状況

■無施設被害が改善されず

平成20年の市内の犯罪発生件数は、864件（前年比10件の減）となり、その大半を窃盗犯が占めています。ここ数年は大幅な減少傾向にありましたが、下げ止まりとなりました。

岩手県内では「住宅侵入盗・乗り物盗・車上狙い」を抑止するため、以前から鍵掛け運動を展開していますが、依然として鍵を掛けずに被害に遭う割合が高く、全国ワースト上位にあります。市内の状況は、特に江刺

署管内の住宅侵入盗が100%となるなど、県を上回る傾向にあります。100%とは、被害に遭った住宅すべてが、鍵が掛かっていない場所から侵入されたことを意味します。住宅侵入盗は、強盗や殺人事件に発展する危険性があります。自分や家族の生命、財産を守るため、しっかり鍵を掛けましょう。全国的に凶悪犯罪が多発する中、「自分の家は関係ない」などとは言っていないのです。

市内の犯罪発生状況の比較（20年は暫定数値）

罪名	水沢署管内		江刺署管内	
	20年	19年	20年	19年
窃盗犯	538	532	118	115
凶悪犯	2	6	2	0
粗暴犯	19	19	5	3
知能犯	50	46	9	7
その他	90	117	31	29
合計	699	720	165	154

窃盗犯の内訳	水沢署管内		江刺署管内	
	20年	19年	20年	19年
侵入盗	64	58	15	11
自転車盗	122	195	11	31
万引き	73	71	31	26
車上狙い	61	65	17	13
自販機狙い	17	40	7	7
その他	201	103	37	27

お元氣レシピ

簡単朝食メニュー⑪

キムチ汁



材料（5人分）
キムチ・豚小間肉……………各 50g
豆腐……………半丁
ダイコン（ハクサイも可）……150g
ニンジン・ネギ……………各 50g
シイタケ……………2個
だし汁……………500cc
みそ……………大さじ2 ½

作り方

- ①具材を適当な大きさに切る
 - ②煮立っただし汁に豚肉を入れて煮る。アクが浮いてきたらすくい取る
 - ③野菜を加え軟らかく煮たら、最後に豆腐を入れる。豆腐に火が通ったらみそで調味し、キムチを加える
- ※辛さは好みで調節してください

わたしたちが作りました



水沢小学校給食室

冷えた体を温めてくれる寒い時期にぴったりの料理です。たっぷり野菜が入っているので、忙しい朝の副菜としてもいいですよ。またキムチとみその乳酸菌が腸の善玉菌を増やし、免疫力を高めてくれるので風邪予防に効果的です。



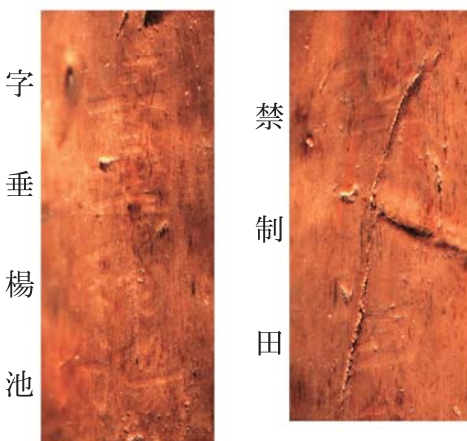
朝8時半の市役所講堂は、緊張感に満ちており、14人の「新人」があいさつする市長をしつかり見つめています。1月13日の臨時職員に対する辞令交付式の様子です。アメリカの金融恐慌に端を

な職を見出すまでの手助けになればと始めたものです。市は、昨年12月に緊急雇用対策本部を立ち上げ、総合相談窓口を設置するとともに、企業へ解雇防止の要請行動を行いました。また中小企業や離職者が必要とする資金に関する支援措置を講じたところ。民間の努力と合わせ、国・県・市が積極的に事業を起こして経済の活性化に力を尽くすとともに、あらゆる分野で雇用を創り出して

発する大不況の影響で、企業から解雇された派遣労働者や、期間雇用労働者（いわゆる非正規雇用者）の方々です。臨時雇用の期間は3月末までで、仕事内容は事務補助や道路現場調査などです。次の恒久的

いかなければなりません。今後、官民挙げて地場産品を積極的に活用するなど、地元産業振興や雇用の創出を強力に図る必要があります。市民の皆様のご協力をお願いいたします。

前沢区白山・道上遺跡 貴重な「木簡」が出土



道上遺跡から出土した「木簡」文字部分の凹凸

県埋蔵文化財センターが発掘調査を行っていた前沢区白山の道上遺跡から、右写真の木簡（文字が記された木の札）が出土しました。

この木簡は、今から1000年以上前、同遺跡近くの田の畦に立てられていたものです。木簡には40字以上の文字が6行にわたって記されていて、「禁制」という文字から書き始められていることから、何らかの行為を禁止するため

に立てられたものと分かります。こうした木簡の出土は東・北日本では初めてで、解読の結果、さまざまなことが分かるようになりました。

■問い合わせ 県埋蔵文化財センター（☎019-638-9001）

その中でも大きな発見として挙げられるのは、田の場所を「字垂楊池」と表記していたことです。「字」は現在の住所などでも使われていますが、もともと条里制という基盤の目状の区画内にある、幾つかの田を特定するために使われたのが始まりです。

従って、この木簡の出土により、遺跡の周辺で条里制が行われていたことが初めて分かったのです。

このように木簡は、現在では分からなくなりましたが当時の様子を、そのままわたしたちに教えてくれる、貴重な資料なのです。